

気候変動への適応に関するCOP28の成果

適応と水環境領域 研究員
椎葉渚

「適応に関する世界全体の目標」に関わる決定に注目

Global Goal on Adaptation: GGA

第5回パリ協定締約国会議(CMA5) 主要合意文書パッケージ“UAEコンセンサス”

- 議長国ユース気候チャンピオン
- 初回グローバルストックテイクの成果
- UAE公正な移行作業計画
- 緩和の野心及び実施作業計画
- **適応に関する世界全体の目標についての
グラスゴー・シャルムエルシェイク作業計画**
- 損失と損害への対応のための基金を含む新たな資金措置の運用

← COP26にて設置が決定。
COP28で成果への合意を
目指していた。

適応に関する世界全体の目標（GGA）についての グラスゴー・シャルムエルシェイク作業計画

2015年



パリ協定7条1項（GGA）

適応能力の向上
レジリエンスの強化
脆弱性の減少

2021年



GGAを検討する
作業計画発足

2022年



GGAに関する
新たな枠組み
の検討に合意

2023年



GGAに関する
新たな枠組み
を採択

「グローバルな気候レジリエンスのためのUAE枠組」採択

Framework for Global Climate Resilience

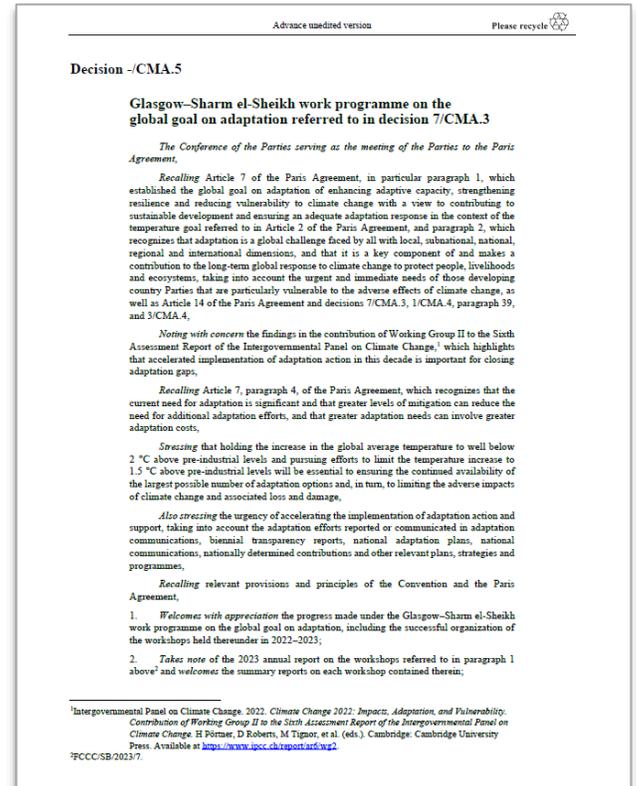
目的：

GGAの達成と、その達成に向けた全体的な進捗状況のレビューを導くこと

国主導、自発的、
各国の事情に沿った
形で実施

テーマ別目標

適応サイクルに沿った目標



[Glasgow-Sharm el-Sheikh work programme on the global goal on adaptation referred to in decision 7/CMA.3](#)

7つのテーマ別目標

国だけではなくあらゆるステークホルダーが、特に2030年まで、さらにその先も漸進的に適応の行動と支援を強化するよう、以下の目標を設定。



気候変動による水不足の削減、水関連災害に対する気候レジリエンスの強化



気候変動に強い食料・農業生産と食料の達成



気候変動に関連する健康への影響に対するレジリエンス



生態系と生物多様性に対する気候変動の影響を軽減



気候変動の影響に対するインフラと人間の居住地のレジリエンス



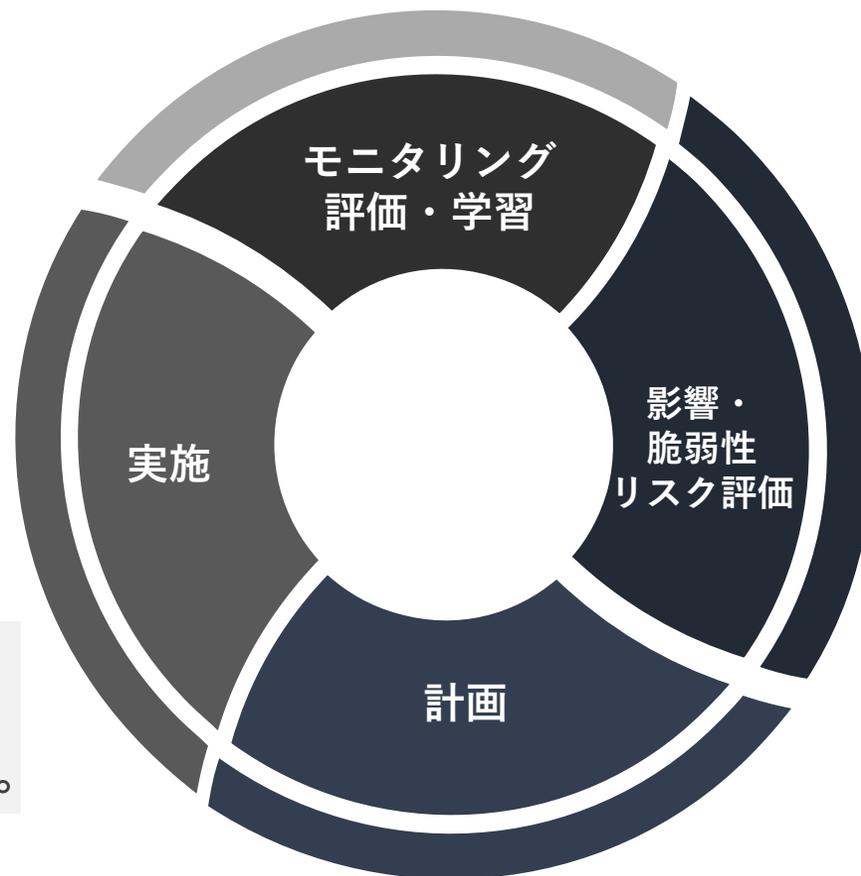
貧困撲滅と生活に対する気候変動の影響を軽減



気候関連リスクの影響からの文化遺産の保護

4つの適応サイクルに沿った目標

2030年までに、すべての国がモニタリング、評価、学習のためのシステムとその実施に必要な制度的能力を構築する。



2030年までに、すべての国が最新のアセスメントを実施し、適応計画等の策定に活用する。

2027年までに、すべての国がマルチハザード早期警戒システム、気候情報サービス、気候関連のデータ・情報・サービスの改善のための観測を確立する。

2030年までに、すべての国が国別の適応計画等の実施を進め、主要な気候ハザード影響を削減する。

2030年までに、すべての国が国別の適応計画等を策定し、必要に応じて関連する計画等に適応を主流化する。

GGAの達成には、様々な主体の参加が不可欠

枠組は、世界が向かうべき適応への取り組みの大まかな方向性を示すものであり、これに沿って、**世界全体で適応の取り組みの加速が見込まれる。**

国だけではなく、**さまざま主体（民間セクター、地方自治体、市民社会、地域コミュニティ、研究・学術機関など）が、知識、経験、技術などを持ち寄ることが重視されている。**

適応に対して関心ある企業、自治体、大学などの主体にとって、**掲げられた11の目標に対して、それぞれの強みを生かす機会**は今後増えていくことが期待。

交渉としては、GGAの達成状況を測る**指標に関する議論のための「UAE・ベレン作業計画」**が発足
また次回会合(SB60)にて、枠組の実施に関連する知見・情報の交換や、どのように枠組をレビュー
するのかなど、**フォローアップの議論を始め、CMA7 (COP30)までに成果を出すこと**を目指す。

ご清聴ありがとうございました。
Thank you very much for your attention.